授業科目名・形態	ソーシャルワーク演習Ⅲ　演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	石岡和志　藤田博章　平林朋子	実務経験の有無	有	開講期	２年後期
科目ナンバリング	W5-2003s				

【授業の主題】

総合的かつ包括的な援助技術および地域福祉の基盤整備と開発にかかわる具体的な援助について、事例等を活用して理解を深め、ソーシャルワーク実践過程について、ソーシャルワーカーの専門性、社会資源や他職種・他機関や団体、また地域との連携等についての理解を深める。

【到達目標】

１．ソーシャルワークの展開過程と規範・知識・諸技術・視点について習得できる。
２．事例に関連した用語の定義や制度・施策、また事例検討の焦点に応じた相談援助にかかる専門的知について理解を深めることができる。
３．現場実践についての理解を深め、生活問題・社会問題とそれへの対応や予防についての具体的な考察ができる。

【授業計画・内容】

第 1 回　オリエンテーション、事例検討の目的と方法、プレゼンテーション技法、グループ決め
第 2 回　ソーシャルワーク実践の展開～社会的に孤立している人に対する援助の事例検討～
第 3 回　事例学習　～低所得者に対する援助の事例検討～①
第 4 回　事例学習　～低所得者に対する援助の事例検討～②
第 5 回　事例学習　～児童虐待に対する援助の事例検討①～
第 6 回　事例学習　～児童虐待に対する援助の事例検討②～
第 7 回　事例学習　～高齢者虐待に対する援助の事例検討①～
第 8 回　事例学習　～高齢者虐待に対する援助の事例検討②～
第 9 回　事例学習　～家庭内暴力に対する援助の事例検討①～
第 10 回　事例学習　～家庭内暴力に対する援助の事例検討②～
第 11 回　事例学習　～その他の危機状態にある相談援助事例①～
第 12 回　事例学習　～その他の危機状態にある相談援助事例②～
第 13 回　事例学習　～災害に関する相談援助事例①～
第 14 回　事例学習　～災害に関する相談援助事例②～
第 15 回　演習のまとめ～各事例の固有性と共通性について整理、各自の学びと達成状況に関する自己評価～

【授業実施方法】

基本的には演習形式とする。本演習はプロジェクターを用いた視聴覚プレゼンテーション、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を行う参加型授業形態で実施する。

【事前・事後学習】

毎回、テキストを中心に 30 分の予習及び演習内容を踏まえた 30 分の復習を行うこと。

【主な関連する科目】

ソーシャルワーク論、ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ

【教科書等】

最新 社会福祉士養成講座 7　ソーシャルワーク演習（社会専門）中央法規出版 2021 年版

【参考文献】

授業中にその都度紹介する。

【成績評価方法】

授業態度 10%、提出物 60%、事例発表等 30%で総合的に評価する。60%以上の得点で合格とする。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

福祉施設で生活相談員として勤務してきた。数々の相談業務の経験を活かし、実践的な相談援助の知識及び技術を伝えたい。

【学生へのメッセージ】

新聞・テレビ等で報道される社会の様々な問題に対して普段から関心をもってもらいたい。実際の援助場面を想定した参加型授業形態なので積極性を発揮してもらいたい。